

# 小学6年2組 家庭科学習指導案

指導者 竹吉 昭人

## 【本時で目指す子どもの姿】

自分たちが提案した過ごし方を、よりよいものにしたり、説得力を増したりさせるために考えを出し合う姿

## 【具体的な手立て】

他者からの評価の項目を明確にし、点数化すると共に、理由を添え交流する場を設ける

### 1 題材名 松江の冬を快適に過ごすための作戦を立てよう ～住まい方～

### 2 題材のねらい

冬を快適に過ごす方法を、室温や湿度、健康・安全面、経済面から多面的に見ていき、よりよい方法を調べたり実際に試したりしながら考え、実感を伴いながら日常生活にいかしていこうとする態度を育む。

### 3 授業の構想

(1) 以下に示すのは、1学期「ムダなく上手にできるかな ～いためる調理～」の題材の中で、1回目の実習を終え、より短時間でささっとできるような工夫を考えた学習後のふりかえりである。

早く調理するために色々な工夫があって、ぼくは油を使ったらキッチンペーパーでさっとふきとろうと思いました。そうすることにより、洗剤を少なく、洗うための水も少なくてきて、スポンジも長持ちするんじゃないかと思いました。このようなことも考えていためていくといいなと思いました。(児童A)

まず、題材の導入として、同じ食材を用いていためる調理とゆでる調理を行い、実感を伴いながらいためる調理の特徴を理解していった。その中の一つである“短時間で調理できる”よさに着目し、そこからムダを省き、より短時間で調理できる工夫はないか考えていった。例えば洗い物を減らすことも短時間で調理する工夫の一つであるが、その工夫が、短時間で調理することに止まらず、洗うための洗剤や水を減らすことが環境にも優しいことであるということに気がついたふりかえりである。上記のように、短時間で調理する課題に対して、実際に挑戦したり、考えたり、話し合ったりする中で、そのよさを多面的に見たり考えたりする本学校園技術・家庭科部で考える主体的に追求する姿を目指していきたい。

(2) 小学校家庭科では、住まい方について、季節の変化に合わせた快適な住まい方を工夫できるようにすることをねらっている。その中でも、主として、暑さや寒さ、通風や換気、採光の観点を元にした工夫や実践ができるようにと示されている。本題材では、松江の冬を目前にしたこの時期に、冬を快適に過ごす方法を考え、検証する学習を通して、実感を伴いながら知識や技能を得ると共に、日常生活に生かそうとする意欲や態度を育みたいと考えている。松江は、日本海側特有の積雪を伴い、風も強く寒さの厳しい地域である。よって、日常生活の中で、寒さを防ぐために、室内に外の冷気を入れない工夫は必要不可欠である。暖房器具を効率的に活用しながら暖かさを保つことを中心に考える。一方で、健康面や安全面の課題、経済面の課題を見出し、考え、解決していくことで、快適に生活することを多面的に考えるよさを感じながら、より実生活に即して快適に過ごすための方法を追求していきたい。

子どものとらえと本題材及び本校家庭科の授業づくりのポイントを踏まえて、本題材を展

開するにあたり、指導のポイントと教師の手立てを以下のように考える。

### ○題材構成の工夫

#### ～子どもたちにとって、身近な事象から導入をしていく～

本校では、今年度から6年生の学級で冷暖房機（エアコン）の運転が始まった。子どもたちにとって、1学期末の気温の上がった時期に、エアコンを用いて快適に過ごせた感動は大きい。そこから、夏を快適に過ごすための用件を導き出していく。

一方で、エアコンのみに頼る過ごし方も効率的ではない。例えば、電気代は気温を1度上げると10%の節約になると言われている。なるべく28度の設定が好ましいと言われるのは涼しいと感じる感覚と、電気代の関係からである。また、“クーラー病”という言葉もあるように、健康面の弊害も言われている。よって、このような実態の具体的な資料も提示しながら快適に過ごすための用件とその課題を共有していきたい。

#### ～追求が継続するような手立て～

グループに分かれて、冬の快適な過ごし方を考え、学級内で提案する活動を仕組む。ひと部屋での過ごし方を考えることとし、条件として、①暖房器具は2つ、②暖房器具以外の物は何を用いてもよいが部屋の構造は変えられない、③1日の過ごし方を提案する、の三つを示す。また、各グループの提案については、「暖かさ（湿度）」「健康・安全」「経済」の3つの視点で子どもたち同士で評価し合えるようにする。夏の過ごし方の学習やこれまでの生活経験を踏まえながらの最初の提案が、自分たちで調べたり、実際に試したりすることを通してより具体的な提案になったり、それをお互いに評価し合うことで、よりよい過ごし方を追求する意欲を高め、自分の生活の中でいかしていこうとする意欲や態度につなげていきたい。

## 4 展開計画（全7時間 本時6／7）

次	時	主な学習内容	追求する子どもの姿
1	1	○夏のエアコンを用いた生活から、快適に過ごすための用件を導き出す	◇快適に過ごせた経験から、気持ちの面も語りながら、なぜ快適だと感じたかその理由を具体的に考え、出し合う姿。
	2	○電気代や健康面の課題から、冷暖房機器を効率的に活用することや、自然を効果的に取り入れることを考える	◇具体的な数値や実例をもとに、比較や検証をし、一般論ではなく、実感を伴って課題を見出す姿
2	3	○冬を快適に過ごすための課題を確認し、各グループで快適な過ごし方の提案を考える	◇夏を快適に過ごすための用件をもとに、冬の過ごし方の課題を解決するための方法を考える姿
	④	○各グループの提案を評価し合い、よりよい提案ができるようにさらに話し合う	◇各グループの提案を評価し合う中で、より快適に過ごすための問いを見出し、いこうとする姿
	5 6	○よりよい提案ができるように、調べたり試したりし、まとめ直す	さらに、問いに対する答えを調べたり、試したりしながら追求する姿
	7	○再度提案し、最終評価をし合う	◇様々な方法から、具体的に自分の生活に取り入れたいことを考えたり、自分の生活に取り入れる工夫をさらに考えたり
	8	○各グループの提案をもとに、自分の生活で取り入れていきたいこと	

		をまとめる	する姿
--	--	-------	-----

5 本時の学習

(1) ねらい

冬をより快適に過ごす方法を，暖かさ（湿度），健康・安全，経済面を踏まえ検証することができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
-------------	-------------

各グループで考えた冬の過ごし方に点数をつけ、より快適な過ごし方を考えよう

1. 各グループの評価の観点を確認する。

・暖かさ（湿度）、健康・安全、経済面で各10点  
1日を通して快適にすごせるか10点合計40点  
で評価し合う。また、その点数にした理由をしつ  
かり書く

2. お互いの提案を発表し合い、評価し合う。

・まずは、各班の提案を聞き合う。聞きながら、納  
得した点や疑問に思った点など理由を付箋に書きこ  
み、得点と共に交換し合う

3. 他のグループからの評価を踏まえて、自分たち  
の考えの課題を明らかにしながら再考する。

・暖かさ（湿度）について  
→体は暖かいかもしれないが、部屋全体が寒そう。  
→日中は暖かくても、夜も暖かく過ごせるか疑問。  
・健康・安全について  
→ストーブだと、部屋の空気が悪くなりそう。  
→1日中部屋をしめききっていたら、部屋は暖か  
いだろうけど、空気が汚れる。  
→自然の力を取り入れるともっとよいのでは  
・経済面  
→暖かくても電気代がすごくかかりそう。

4. 本時を振り返る。

→冬を快適に過ごすためには、暖房器具も欠かせ  
ないけど、それだけ使い続けることは健康にも良  
くなく、換気をする必要もあったり、昼と夜とで  
の過ごし方を変えたりする必要があることが分か  
った。暖かいだけではなく、健康なども含めても  
っと快適に過ごす方法を考えていきたいと思っ  
た。

・得点化することで、自分たちの提案をどのように  
他の人が受け止めているか分かりやすくする。ま  
た、他のグループとの比較も容易にでき、よりよ  
い方法を考えようとする意欲につなげたい。

・得点については、あくまで他者の評価を見やすく  
するためであって、その点にいたった経緯をしつ  
かりと記述したり、説明したりすることを大切に  
していくことで、自分たちの課題を明らかにして  
いく手立てとしたい。

・他のグループからの意見の中には、自分たちにな  
かった視点があること、十分に説明しきれなかつ  
たことが考えられる。子どもたちが提案したこと  
に対して、これまでの学習や生活経験をいかして  
考えたことを価値付けていく。その上で、さらに  
自分たちの提案に説得力が増すようにという声か  
けをすることで、調べたり、試したりしようとす  
る意欲を継続しつつ、さらなる追求を引き出して  
いきたい。

・子どもたち同士で考えを出し合うことで、課題に  
対して幅広く考えたり、深く考えたりするよさを実  
感できるようにしたい。また、そのことで、日常生  
活がよりよくなることを共有し合い、次時の学習に  
つなげていく。

【評価の観点（家庭生活についての知識・理解）】

温度や湿度の調節に加え、健康面や経済面なども踏  
まえて快適に過ごす方法が分かる。

（評価方法 発言・ワークシート）

研究会授業にあたって

先日の打ち合わせでいただいた課題を踏まえて・・・

<子どもたちに身につけさせたい力>

→季節に応じた快適な過ごし方について・・・

涼しく・暖かく過ごすことを中心としながらも、健康や経済面なども考えることでより実

生活につながる“快適”を考えることができる。(多面的な視点・要素の発見・意識の向上)では、どうするかについては、方法も多種多様。条件によってもちがう。しかし、具体的な方法も考えなければ、実生活につながらない。よって今の時点での方法を追求させていきたい。(要素の追求では物足りない!?)